



NEWS RELEASE

日本発の新たな安全の考え方

“ウェルビーイングテクノロジー” Well-being Technology (WBT) 「協調安全」
建設現場からモノづくり現場へ拡大



【IGSAP／モノづくり委員会発足】

トヨタ, 花王, 安川電機, オムロン, パナソニック, 他13社が参画
働く人の安全・安心・ウェルビーイングを実現

一般社団法人セーフティグローバル推進機構(IGSAP・会長/向殿政男)は、日本発の新たな安全の考え方ウェルビーイングテクノロジー(WBT)の一翼を担う「協調安全」を活用し、建設現場の安全・安心・ウェルビーイングを推進・実現する建設委員会(委員長/清水建設・河田孝志、副委員長/鹿島建設・穴井秀和、大林組・杉浦伸哉、日立建機・枝村学)に続き、モノづくり現場の安全・安心・ウェルビーイングを推進する“モノづくり委員会”(委員長/トヨタ自動車株式会社・村田斉彬、副委員長/IGSAP・梶屋俊幸)を発足させ1月29日キックオフ会議を開催します。

製造現場において、人と機械が同じ空間で作業する現場が増加している中で「協調安全」が注目されています。これは、従来の人と機械の隔離だけでなく、人と機械と環境が情報交換することによって協働や協調作業を可能にする新しい安全対策のアプローチです。

モノづくり委員会はトヨタ自動車で作成している協調安全ガイドラインを基に、様々な安全方策、評価方法、妥当性などを現場目線で議論して、委員会としてのガイドライン発行及び様々なモノづくり環境での応用事例を開発、現場実装する委員会活動を推進していきます。さらに、IGSAPでは日本認証株式会社が2019年から経済産業省の委託事業と連携してIEC(国際電気標準会議)において白書発行など標準化活動を進めてきており、その標準化プロジェクトとモノづくり委員会が連携し、製造現場で協調安全の導入に伴う技術的な課題や規則に関する討議と検討を進めて行きます。

参画企業は日本の先端モノづくりを牽引するトヨタ自動車株式会社、花王株式会社、株式会社安川電機、オムロン株式会社、パナソニックコネクタ株式会社、パトライト株式会社、パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社、株式会社ダイフク、日立建機株式会社、三菱電機株式会社、株式会社アトリエ、IDEC株式会社、日本認証株式会社の13社とオブザーバとして経済産業省(ロボット政策室、国際電気標準課)で開始して、今後、機械、自動車、ロボット、電気、制御機器など幅広いモノづくり企業からの参画を推進します。業界・業種を超えた委員会企業が様々なモノづくり現場を俯瞰で観察し、WBTの協調安全の考え方を基軸に建設委員会とも連動し、国内及び海外も視野に入れた活動を開始します。

注1) 建設委員会企業：清水建設(株)、日立建機(株)、(株)大林組、鹿島建設(株)、西日本高速道路エンジニアリング関西(株)、(株)NIPPO、富士電機(株)、パトライト(株)、ニシオティーアンドエム(株)、エフティーエス(株)、(株)演算工房、IDEC(株)、トヨタ自動車(株)、EP Rental(株)、(株)日経BP

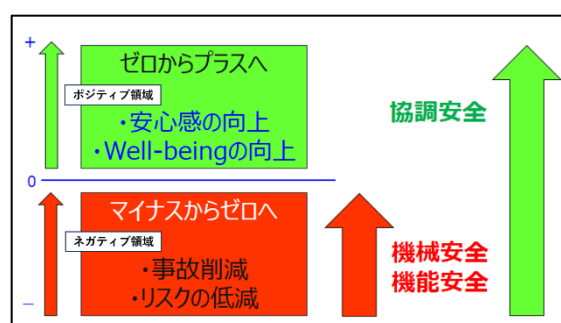
世界に目を転じると、安全・安心・ウェルビーイングを推進・実践している企業は数多くあり、日経B P社が2023年5月に発行の「実践！ウェルビーイング」では清水建設、積水ハウス、トヨタ自動車、BMW、メルセデスAMG F1、ロレアル、ナイキ、レゴなどWB T実践企業が数多く紹介されています。IGSAPにおいても、会員企業が様々な委員会活動を通じてWB Tの一翼を担う「協調安全」を企業内で活用し、安全・安心・ウェルビーイングを推進しています。2023年11月27日～30日にオーストラリア・シドニーで開催された世界最大の「第23回世界労働安全衛生会議」において、日本からは、産総研、トヨタ自動車、清水建設、IDEC、大和ハウスから協調安全について発表したところ、ウェルビーイングが大きく改善された点について世界から非常に高い評価を得ました。



□WB Tの一翼を担う「協調安全」とは

協調安全は、技術と人間と組織・環境が、互いに情報共有し協調、調和して安全を確保する日本発の新しい安全の概念です。この協調安全の技術的方策である＜Safety 2.0＞の採用により、人と機械が共存する環境において、ICT技術などにより、人・機械・環境が情報連携することで、生産性を維持しながら危害を未然に、かつ持続的に防止することが可能となります。

この協調安全は、働く人の生きがい、やりがいを尊重する考え方・活動であり、これまでの事故削減、リスク低減といったネガティブ領域でのマイナスからゼロに向かっての活動だけでなく、幸せ、安心、快適、やりがいや安心感の向上等を求めるといったゼロからプラスへ向かってのポジティブな領域での活動であり、モノづくり現場での安全はもとより、働く人のウェルビーイングの実現に貢献します。



□モノづくり委員会のミッション

日本発の新たな安全の考え方であるWB T「協調安全」を日本国内及び海外で普及させ、事例から得られた様々な観点からの知見をもとに国際標準化提案を推進し実現を目指します。

*国内はもとより海外も視野に入れて実現すべきことは

- ①安全性と生産性の両立を目指す「モノづくり現場」を実現
- ②人のいきがい、やりがいを尊重して「働く人のウェルビーイング」を実現

『モノづくり委員会 活動イメージ』

モノづくり委員会は適時、他のIGSAP内の委員会（Safety2.0、建設、ロボット、エグゼクティブ）、特に建設委員会とは両輪として連携し協調安全活動を積極的に展開する。



『 W B T の一翼を担う「協調安全」の産業分野イメージ図 』



◆問い合わせ先 (一社)セーフティグローバル推進機構 TEL06-6399-1211 大阪市淀川区西宮原 2-7-5
広報担当 村上